

新たな夢ロマン

# 長岡版広域道路ビジョン (案)

今こそ描こう  
100年先の未来を

平成31年 3月

長岡市

長岡開府400年  
ROOTS  
400 越後長岡

# 目 次

1.目的	2
2.現状と課題	3
3.都市構造	7
4.新たな連携軸	9
5.軸の魅力、軸の強化に向けた目標	13
6.ソフト施策	21
7.策定経緯等	25

## 1.目的

長岡市は、関越・北陸自動車道の結節点にあり、さらに国道8号・17号などにより、関東、東北、北陸方面との広域的な道路ネットワークを形成しています。これまで、このような交通の要衝である優位性を最大限に活かしながら、経済の発展を図ってまいりました。

しかしながら、急激に進行する少子高齢化や人口減少の波は、長岡市や中越地域にも押し寄せており、将来においてさらに発展を遂げるためには、地域をネットワークで結び、人・モノ・情報の高密度な交流を実現し、新たな価値を創造することが喫緊の課題となっております。

また、長岡市は昨年12月には、中枢中核都市に選ばれ、東京一極集中を抑制するため、中越地域全体の経済・生活を支え、地方創生をけん引する役割が期待されております。

このような状況の中、将来を担う若者たちが未来に夢を抱き、ふるさとに誇りを持ち、そして、長岡市が日本海側の拠点として、さらに発展を遂げることを目指し、次の100年に向け「長岡版広域道路ビジョン」を策定するものです。

本ビジョンは、長岡市総合計画など、中越地域の自治体の総合計画や、国・新潟県の関連する計画を踏まえ、「道路版百年の計」として、道路整備の将来的な方向性と連携軸の強化に向けた目標を示しております。

策定にあたっては、学識経験者や経済界、若者の代表などからなる「長岡版広域道路ビジョン懇談会」を設置し、ご意見をお聞きしながら検討してまいりました。

今後、このビジョンを長岡市及び中越地域の道路整備目標に掲げ、国、県、周辺市町村と連携を図りながら、実現を目指してまいります。

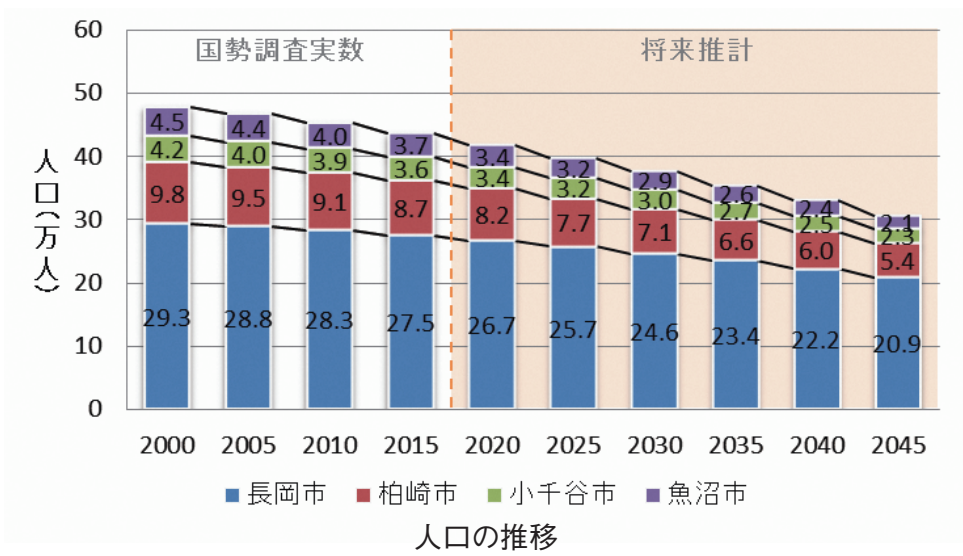


2.現状と課題

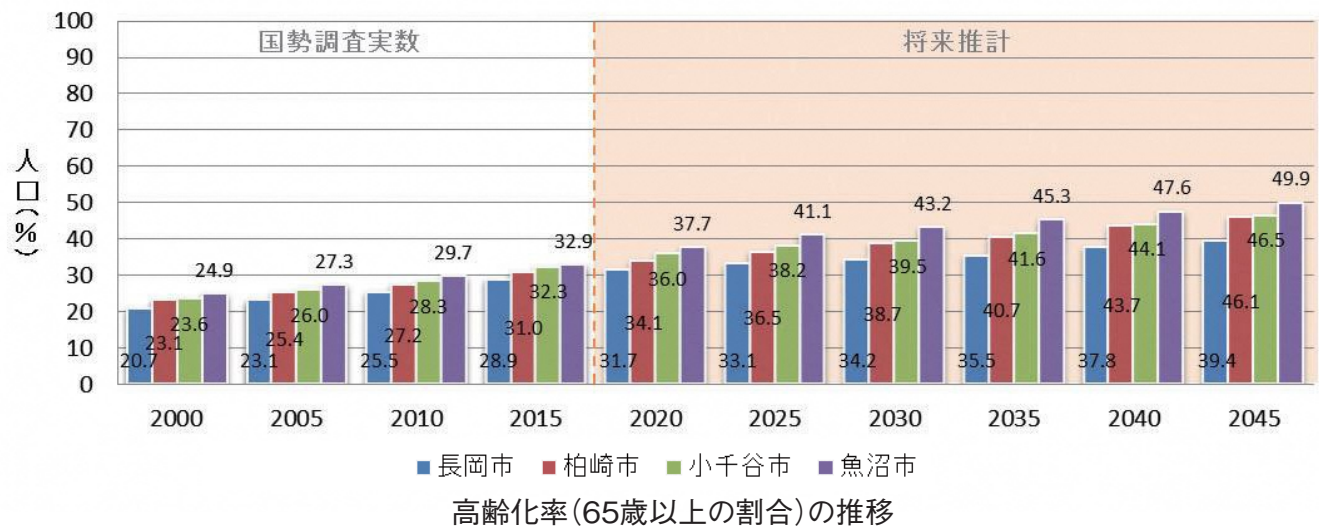
定住人口

少子高齢化・人口減少は、全国的に喫緊の課題となっており、「国土のグランドデザイン2050」（平成26年国土交通省）によると、2050年には、全国6割の地域で人口が半分以下になるとされています。

長岡市をはじめとする中越地域においても、首都圏への人口流出などによる人口減少が続いています。また、高齢化率も将来にわたって上昇を続けることが予測されています。



出典：「都道府県・市区町村別統計表(国勢調査)」「日本の地域別将来推計人口」(平成30年3月推計) 国立社会保障・人口問題研究所

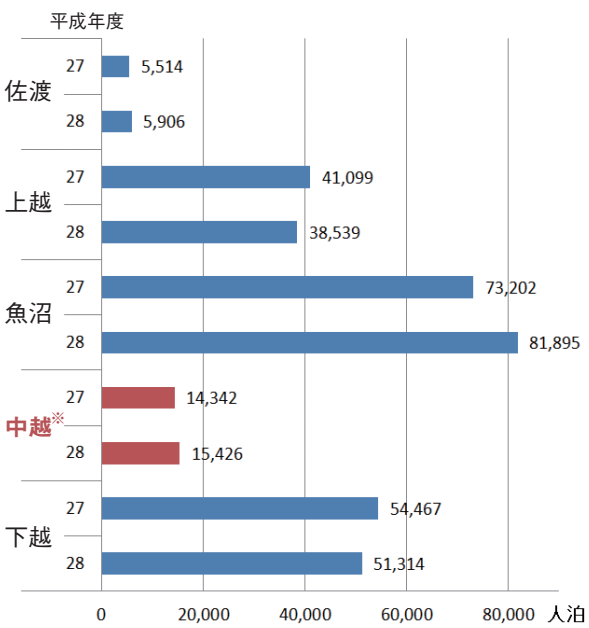


出典：「都道府県・市区町村別統計表(国勢調査)」「日本の地域別将来推計人口」(平成30年3月推計) 国立社会保障・人口問題研究所

交流人口(観光)

大河信濃川を軸に、山岳から平野・海岸にわたる多様な自然環境、日本の原風景を感じさせる景観や、火焰土器に代表される縄文文化・歴史に根差した良好で風情のある市街地景観、さらに、国営越後丘陵公園や長岡まつり大花火大会など、多様な観光資源を活かしたより一層の交流人口の拡大が必要です。

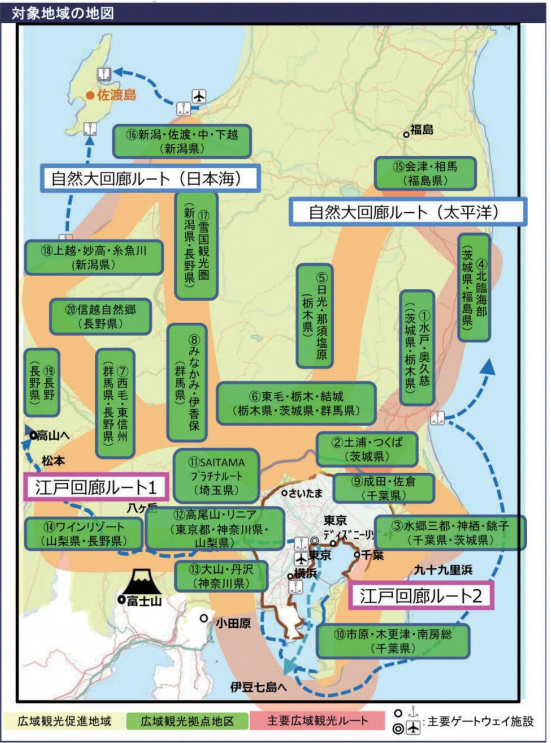
また、インバウンドについては、新潟県内の外国人宿泊数はスキーシーズンを中心に徐々に増加していますが、中越地域は低迷を続けています。今後、新たな広域観光周遊ルートの形成など、周遊を促す広域連携や情報発信が必要です。



新潟県地域別外国人宿泊状況

出典：「平成28年新潟県観光入込客統計」平成29年11月 新潟県観光企画課

※中越：長岡市、三条市、柏崎市、小千谷市、加茂市、見附市、田上町、出雲崎町、刈羽村

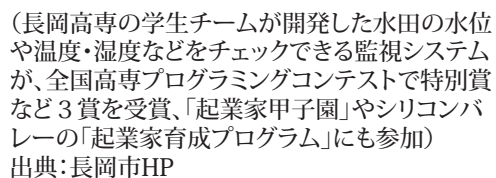
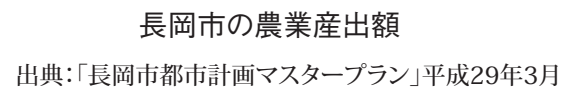
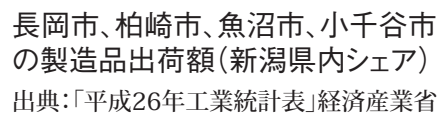


広域関東周遊ルート(平成28年6月認定)

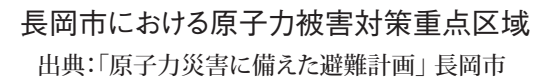
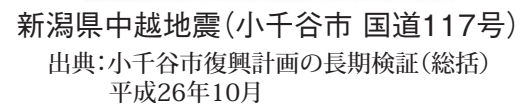
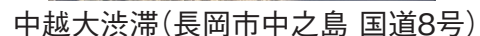
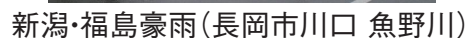
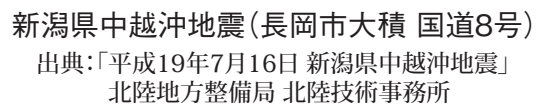
出典：「広域観光周遊ルート形成計画概要」国土交通省観光庁



また、会津地域も、ICT技術を生活に積極的に取り入れる、先端技術と歴史が融合する地域であることから、連携の枠を広げることで、新たな技術の創出が期待できます。



中越医療圏は、隣接する医療圏からの救急搬送率が高く、救急搬送時間の短縮が求められています。隣接医療圏との連携強化とともに、より迅速な救急搬送ができる道路ネットワークが必要です。



	No.	施設名	機能別区分
柏崎市	(12)	厚生連柏崎総合医療センター	●▲
	(13)	関病院	
	(14)	国立病院機構 新潟病院	●
	(15)	柏崎中央病院	●
	(16)	立川メディカルセンター-柏崎厚生病院	
小千谷市	(17)	厚生連小千谷総合病院	●
	(18)	小千谷さくら病院	
見附市	(19)	見附市立病院	●

○ 救命救急センター ● 救急告示病院 □ 地域医療支援病院 ■ がん診療連携拠点病院 ▲ 災害拠点病院

## 中越地域の医療施設と機能別区分

出典:「第7次新潟県地域保健医療計画」平成30年3月新潟県

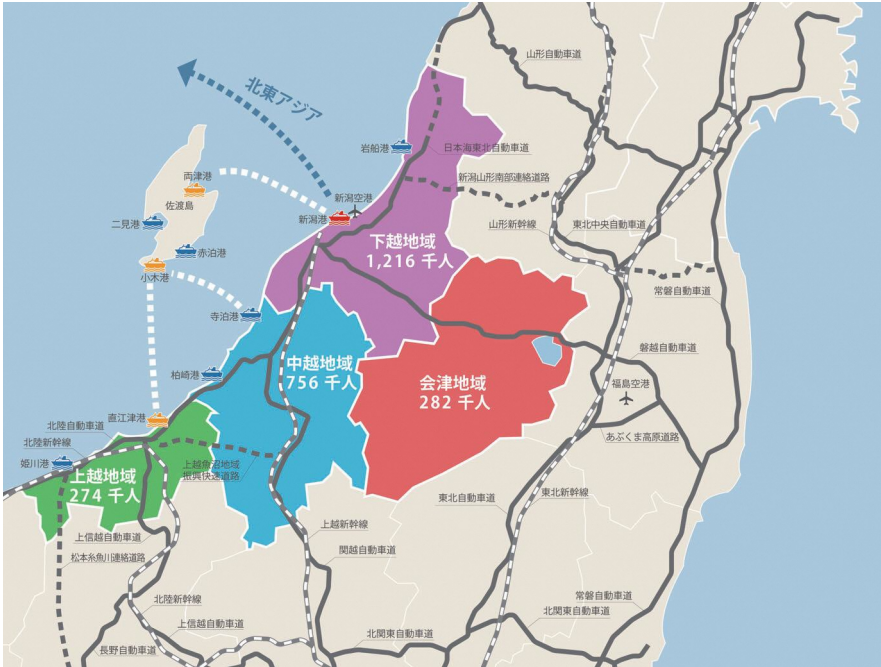


3.都市構造

中越地域周辺の都市構造

中越地域は、新潟県の中央部に位置し、中でも長岡市は、高速道路や新幹線等を介して首都圏などへつながる交通の要衝として栄えてきました。

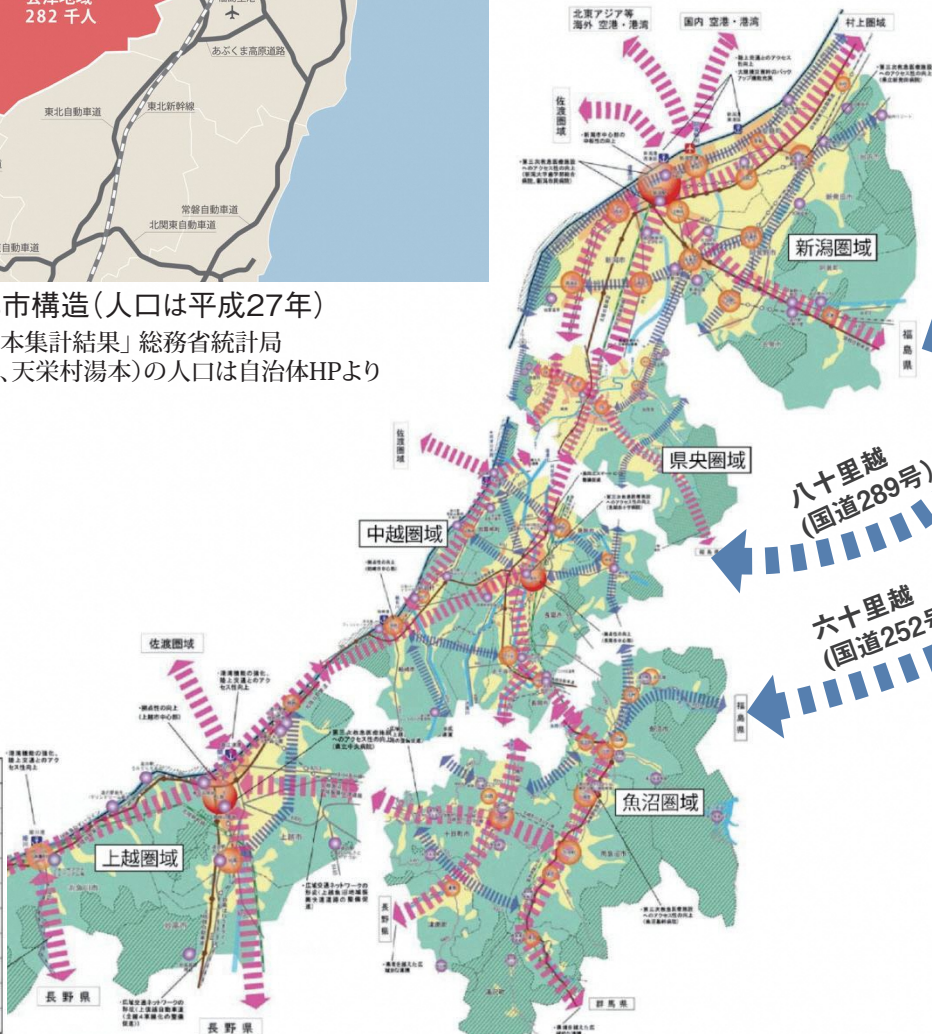
関東に近い中越地域が下越地域・上越地域と連携を強化することで新潟県全体の発展につながり、また、歴史的なつながりが深い福島県の会津地域を新たな連携軸で結ぶことで、交流の枠を更に広げることができます。



中越地域周辺の都市構造(人口は平成27年)

出典:「平成27年国勢調査 人口等基本集計結果」総務省統計局  
※会津地域の一部(郡山市湖南、天栄村湯本)の人口は自治体HPより

凡 例	
	広域拠点
	都市拠点
	交流拠点
	広域連携軸
	地域連携軸
	市街地
	都市・農業地域
	森林地域
	自然公園地域
	河川・湖沼・海岸
	空港・港湾
	新幹線・鉄道駅
	高速IC
	新幹線
	その他鉄道
	高速道路
	一般国道



新潟圏域、中越圏域、魚沼圏域、上越圏域の広域圏計画  
出典:「新潟県広域都市計画マスタープラン(平成29年3月)」新潟県

会津地域とのつながり

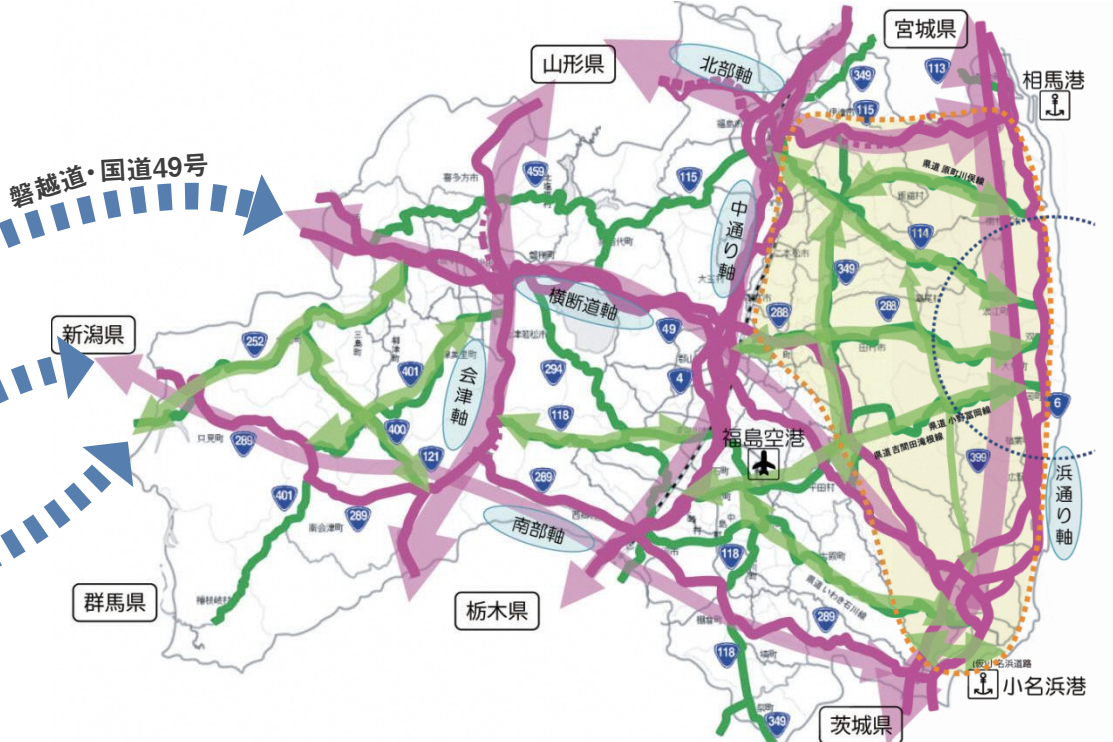
平成30年には、幕府軍が新政府軍と戦った戊辰戦争から150年の節目を迎えました。中越地域と会津地域は共にその激しい戦場となり、深いつながりがあります。

戦国時代から明治末期まで、八十里越を利用して、南会津地域では、食塩、魚類、鉄製品などの生活用品を越後から移入し、また、ここから繊維原料、林産物、労働力などを越後へ送り出していました。



八十里越

出典:「八十里越を翔る」パンフレット  
長岡国道事務所



「ふくしま道づくりプラン(H22策定)」における類型区分

- 基幹的な道路 13路線
- 地域連携道路 19路線

「県復興計画(第1次)重点プロジェクト対象路線」

- 基幹的な道路 13路線
- 地域連携道路の内12路線

県土連携軸・交流ネットワーク基盤強化プロジェクト【ネットワーク図】

出典:「福島道づくりプラン(復興計画対応版)(平成25年)」福島県

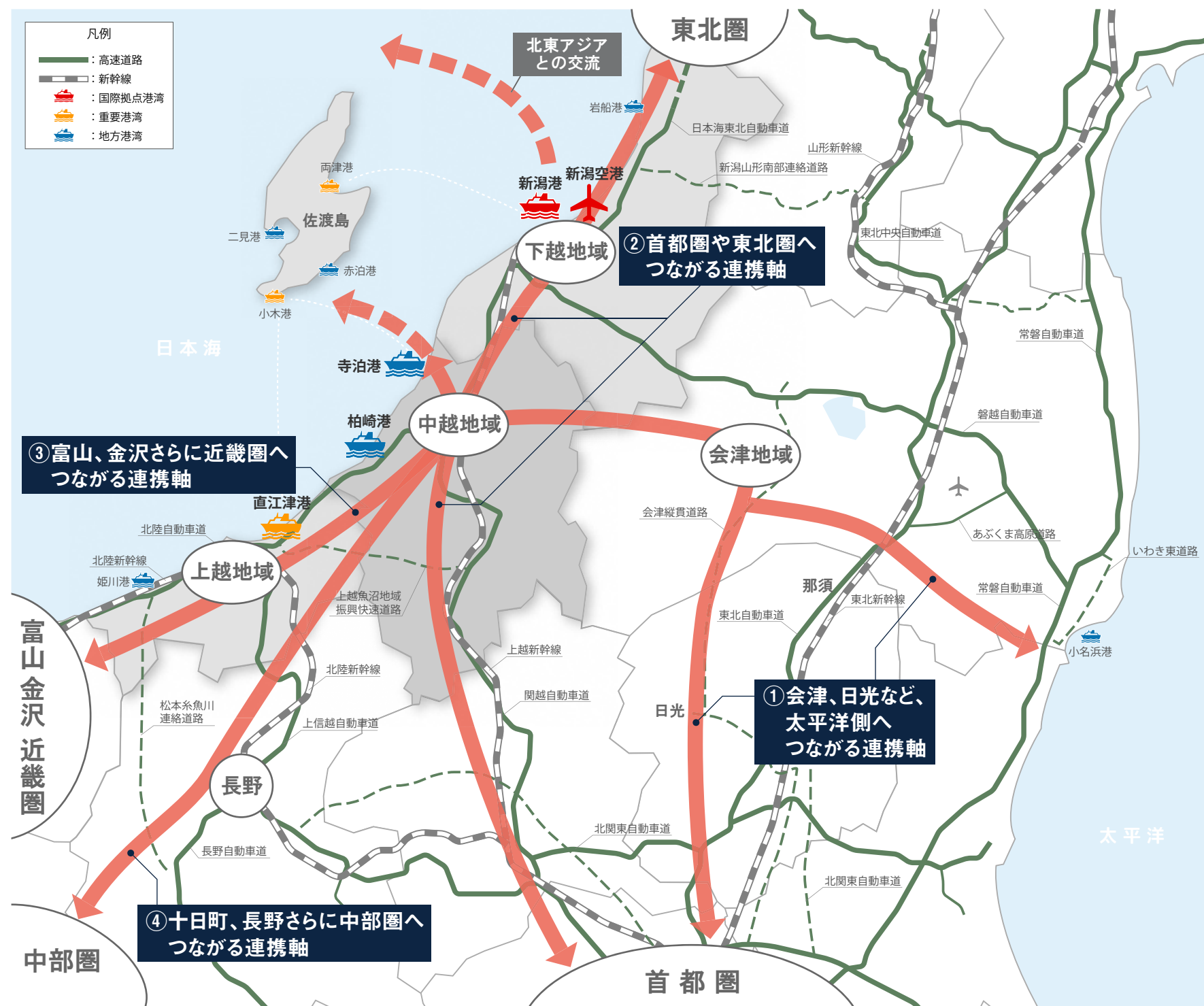


# 4.新たな連携軸

## 広域的に強化すべき連携軸

〔方針〕

- ・広域連携による、地域の産業や資源などの一層の活用
- ・港湾や空港、新幹線とのつながりによる、物流・人流の広域化
- ・安全・安心で住みやすい地域づくり
- ・信濃川東西市街地の一体化



## ① 会津、日光など、太平洋側へつながる連携軸

- ・会津地域を経由して、日光、那須、栃木などの北関東、さらには関東が身近になり、これまで以上に行動範囲が拡大！ 日帰り観光が可能に！
- ・新たな広域観光周遊ルートの形成により、新たな観光客、インバウンドをキャッチ！
- ・中越地域の食、産業の新たな物流ルートの構築により、物流、人流が活性化！
- ・関越道、磐越道の代替道路、原発事故の避難路など、広域的な防災・減災力アップ！ 首都圏のバックアップの役割にも期待！

## ② 首都圏や東北圏へつながる連携軸

- ・首都圏や東北圏に向かう連携軸が複数確保され、災害時にも安定した往来が可能に！
- ・新潟港や新潟空港に向かう連携軸が強化され、港湾や空港などを活用した人や物の流れが活発に！ 北東アジアなど国際交流にも期待！
- ・寺泊を経由した佐渡への連携軸が強化され、寺泊の北前船にまつわる観光資源や、インバウンドに人気の佐渡を周遊する観光ルートが形成！

## ③ 富山、金沢さらに近畿圏へつながる連携軸

- ・上越地域とのネットワーク強化により、その先の富山、金沢さらに近畿圏が身近に！
- ・新たな広域観光周遊ルートの形成により、新たな観光客やインバウンドをキャッチ！
- ・近畿、中部圏につながるリダンダンシー（複数ルート）の確保により、東海、東南海地震の際、広域的な防災・減災力アップ！

## ④ 十日町、長野さらに中部圏へつながる連携軸

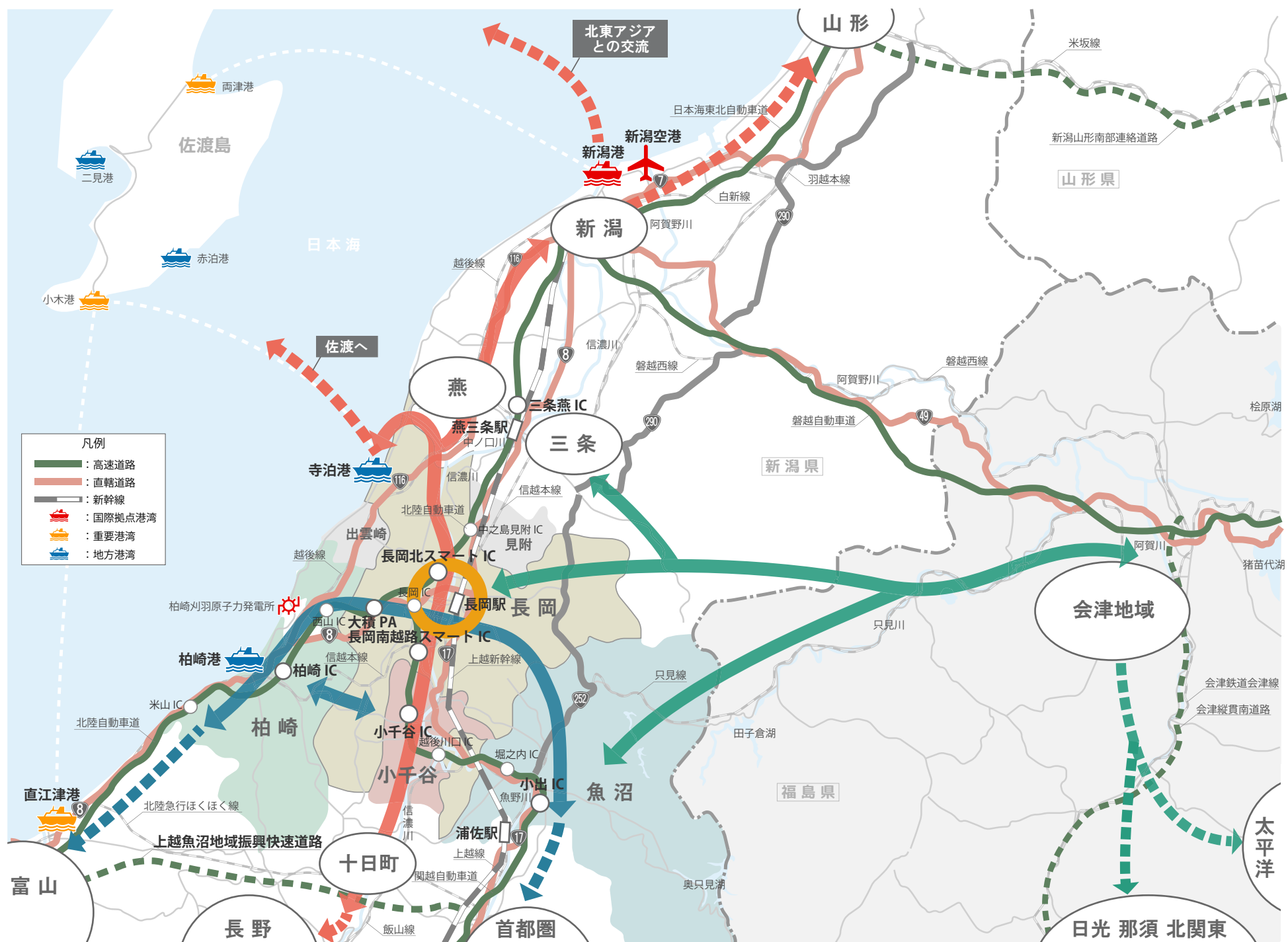
- ・十日町を経由し、長野さらに中部圏が身近に！
- ・中越地域の食、産業の新たな物流ルートの構築により、物流、人流が活性化！
- ・信濃川四季の景観、美しい棚田、酒、米、そば、アグリツーリズムなどをうまく組み合わせインバウンドをキャッチ！
- ・中部地方、首都圏につながるリダンダンシー（複数ルート）の確保により、関東大規模地震の際、広域的な防災・減災力アップ！



## 中越地域が将来、強化すべき連携軸

〔方針〕

- ・広域連携による、地域の産業や資源などの一層の活用
- ・港湾や空港、新幹線とのつながりによる、物流・人流の広域化
- ・安全・安心で住みやすい地域づくり
- ・信濃川東西市街地の一体化



〔連携軸〕 → : 会津地域につながる連携軸 → : 信濃川左岸の南北軸 → : 中越地域の一体性を強化する東西軸 ○ : 東西市街地の一体化

## 会津地域につながる連携軸 ↔

～歴史的つながり、夢も膨らむ広域ルート～

- ・戊辰戦争をはじめ長い歴史の中で培われた経済・文化交流が復活！
- ・優れたものづくり産業、先進技術、大学など専門教育融合により、どこにも負けない先端技術の育成に期待！
- ・会津、日光、那須など有名観光地が身近になり、行動範囲が広がる（夢膨らむ広域ルート）！
- ・磐越道、関越道に加えて新たな太平洋側への横断軸が形成、中越地域のみならず新潟県全体の防災・減災力アップ！
- ・中越地域への県境を越えた救急搬送が可能に！

## 信濃川左岸の南北軸 ↔

～中越の魅力・宝を全国、世界へ～

- ・信濃川左岸軸の強化により、新潟と長岡・小千谷・十日町が繋がり、新たな連携軸を形成！
- ・佐渡との観光連携、新たな観光ルート形成で、インバウンドをキャッチ！
- ・港湾、空港などのゲートウェイとの連携により、中越地域の魅力・宝を長野方面、さらには北東アジアに発信！
- ・スマートIC、産業団地との連携により、産業が活性化。働く場、雇用の創出にも期待！
- ・国道17号、8号と対になった災害時のリダンダンシー機能も担う！

## 中越地域の一体性を強化する東西軸 ↔

～越後三山から日本海までをつなぐ広域ルート～

- ・中越地域の自然豊かな海や山、中心市街地を連携し、住民が豊かな生活を満喫！
- ・ウインタースポーツ、マリレジャー、新鮮な海や山の幸、豪雪地帯ならではの雪景色などを活用しインバウンドをキャッチ！
- ・中山間地の生活と都市部の生活の融合！農業を営みながらいつでも都市の魅力を満喫！
- ・これまで諦めていた冬期間の通行も円滑に！災害時のリダンダンシー機能も担う！
- ・隣接医療圏からの迅速な救急搬送が可能に！

## 東西市街地の一体化 ○

～中越地域全体の発展のために～

- ・中越地域の発展には信濃川で分断された東西市街地の一体化が重要！
- ・橋りょう部の強化により、都市機能の連携強化が促進！
- ・高速道路と連携した道路ネットワーク強化により、買い物やレジャー、通勤・通学など、暮らしやすいまち、安全・安心なまちに！
- ・各連携軸が結びつき、中越地域全体の人・モノ・情報の流れが活性化！







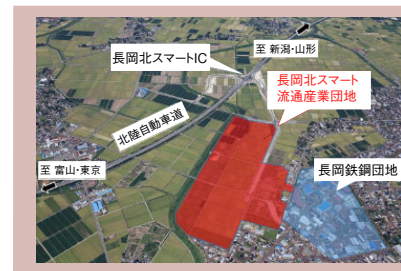
## 信濃川左岸の南北軸



1.観光周遊促進



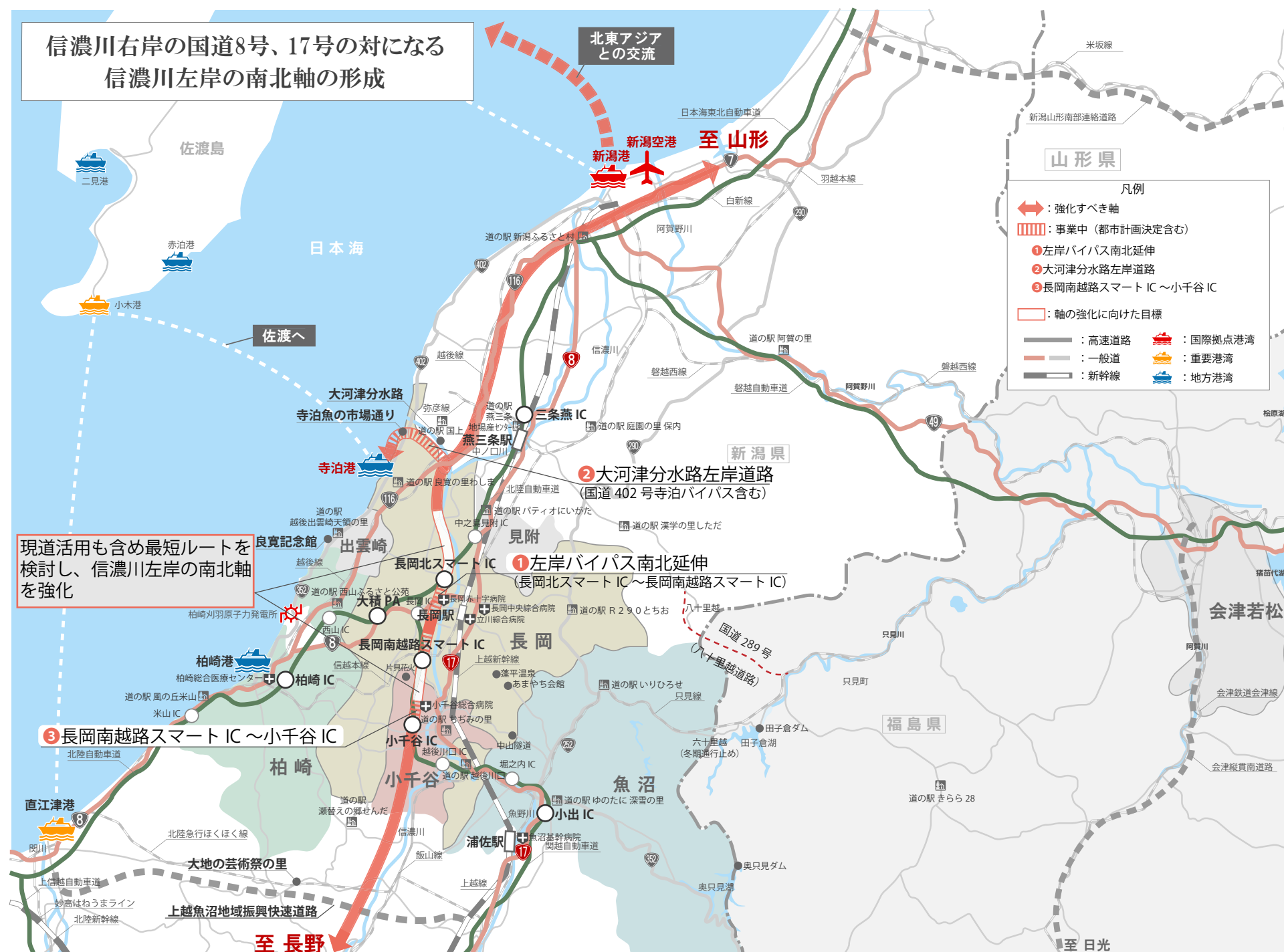
2.海外との交易ルートの強化



3.地域産業の振興



4.広域的な防災・減災機能強化



## 1.観光周遊促進

・新潟空港、寺泊港などとのアクセス性を強化し、中越地域や佐渡の特色ある観光資源を結びつけることにより、国内観光客はもとより、インバウンドの増加に期待できます。さらに十日町や長野方面との連携強化により、誰にでも分かり易い広域周遊ルートが形成され、積極的な観光施策が展開されます。

## 2.海外との交易ルートの強化

・信濃川左岸の連携軸と高速道路のインターチェンジが結ばれることで、中越地域を中心に新潟県を縦断する物流ルートが強化されます。新潟方面へのアクセス性が向上することにより、新潟港、新潟空港を活用して、中越地域の宝を北東アジア等海外へ発信することが可能となります。

## 3.地域産業の振興

・ものづくりの現場と高速道路がスムーズにつながることで、地域の未来をけん引する先端産業の連携が強化され、流通の促進につながります。

・インターチェンジ周辺に産業団地が整備され雇用の場が生まれることにより、中越地域全体ににぎわいが創出されます。

## 4.広域的な防災・減災機能強化

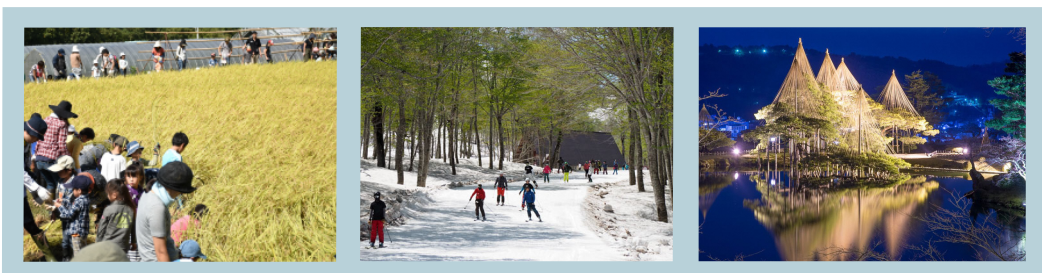
・信濃川右岸の国道8号、17号と対となる南北軸の形成により、リダンダンシーが確保され、中越地域の防災・減災機能強化につながります。また、港湾・空港や、長野・中部圏との連携強化により、災害時の広域的な救援が可能となります。



## 中越地域の一体性を強化する東西軸



1.豊かな自然と都市部の連携強化



2.観光周遊促進



3.地域産業の振興



4.中越地域の防災・減災機能強化

## ～越後三山から日本海までをつなぐ広域ルート～



### 1.豊かな自然と都市部の連携強化

- ・海や山などの豊かな自然と都市部の往来がスムーズになり、日本らしい四季のある生活を体感できます。
- ・農山村部と都市部のアクセス性が強化され、農業を営みながら都市の利便性を享受でき、都市部の住民ものどかな農村風景をいつでも楽しむことができます。

### 2.観光周遊促進

- ・地域固有の農業を活用したアグリツーリズム、ウィンタースポーツや豪雪地帯の生活体験など、年間を通してユニークな観光施策が展開されます。
- ・中越地域の内陸部から富山、金沢等北陸方面への新たな観光ルートを開拓することができます。

### 3.地域産業の振興

- ・新たなスマートICや高速道路、直轄国道を結ぶネットワークを強化することにより、中越地域の産業を首都圏、関西圏へ発信し、流通を促進します。
- ・中山間地へのアクセス性が向上することにより、季節によって働く場を変えるなど、若者向けの雇用創出が可能となります。

### 4.中越地域の防災・減災機能強化

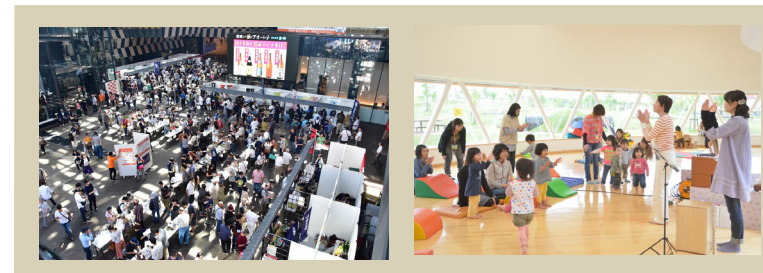
- ・雪でも通行止めにならず、安心して通行できるネットワークが形成され、地震・洪水・原発事故等災害時のリダンダンシーが確保されるなど、中越地域の防災・減災機能が一層強化されます。
- ・日本海側経由のルートを活用して、太平洋側の大規模地震時等の有事の際に、富山、石川、近畿圏への広域的な救援が可能となります。
- ・隣接医療圏から中越医療圏へのアクセス性が向上し、迅速な救急搬送が可能となります。



## ■東西市街地の一体化



## 1.都市機能の連携強化



## 2.暮らしやすいまち



### 3. 連携軸の強化

～中越地域全体の発展のために～



## 1.都市機能の連携強化

・信濃川橋りょう部の交通容量の拡大や老朽化対策を進めることにより、信濃川で分断された東西市街地が一体化し、病院、大学、長岡駅などの都市機能の連携強化が図られます。

## 2.暮らしやすいまち

・信濃川で分断されている東西市街地の一体化により、市役所などの行政施設、大型商業施設、子育て支援施設、国営公園など市民生活に密着した施設が利用しやすくなり、誰もが暮らしやすさを実感することができます。また、円滑な交通により、災害時や救急搬送時のリダンダンシーが確保され、安全・安心なまちとして、定住人口の増加につながります。

### 3. 連携軸の強化

・信濃川橋りょう部は中越地域全体の交通の要であり、橋りょう部の交通を冬期も含め一年を通して円滑にすることで、各連携軸が結びつき広域のネットワークが強化されます。このネットワークの強化により、人、モノ、情報の流れが活性化するなど様々な効果をもたらし、中越地域が日本海側の拠点として発展することが期待されます。



# 6.ソフト施策

## 長生橋の延命化

- ・現在の長生橋(3代目:1937年完成)は、完成から80年以上が経過しました。2013年には構造的にも貴重で、景観的にも優美であることが評価され、土木学会の選奨土木遺産に認定されています。また、東西市街地を連絡する重要な道路機能を担うほか、長岡まつりの大花火大会ではナイアガラの舞台となるなど、市民に愛される地域の大切なシンボルとなっています。
- ・この地域のシンボル「長生橋」を未来へ残すため、長寿命化工事を適切に行うとともに、トランジットモールといった公共交通を主体とした利用方法、あるいは大型車を規制し負担を軽減するなどの検討が必要です。



長 生 橋



トランジットモールの例

※トランジットモール:道路の一般車両の通行を制限して歩行者や自転車専用の空間とし、バスやLRTなどの公共交通機関のみに開放した利用方法。

出典:「新金沢交通戦略」金沢市都市政策局

## 除雪体制の維持・強化

- ・豪雪時における大規模渋滞の抑制や通行止め時間の短縮を図るためには、NEXCO、国、県、市町村が一体となった除雪体制の確立が必要です。
- ・現在開発が進められている除雪車の自動運転技術の導入により、除雪作業の安定化、省力化を目指します。
- ・消雪パイプについては、IoTなどの新技術を活用し高度化を図ります。
- ・様々な取組みにより、一年を通して安全・安心な交通を確保し、有事の際の避難路確保や観光客の増加などにつなげていきます。



中越大渋滞(長岡市国道8号)



長岡圏域情報連絡本部による情報伝達訓練



消雪パイプ



高度化された除雪車のイメージ

出典:「第1回冬季道路交通確保対策検討会」国土交通省



## 自動運転技術の活用

- ・平成30年度に長岡市山古志地域で「やまこし復興交流館おらたる」を拠点とした自動運転サービスの実証実験を行います。
- ・自動運転サービスを活用し、高齢化が進行する地域の生活を支える基盤、人流・物流の確保を目指します。
- ・地域に魅力を感じ、豊かな自然の中で暮らしたいと考える人の定住にもつながります。
- ・今後ますます増える交通弱者に対応するため、自動運転技術を活用した新たな公共交通システムの実現を目指します。



やまこし地域での実験車両イメージ

出典：中山間地域における道の駅等を拠点とした自動運転サービス実証実験 HP 国土交通省



〔観光客の移動〕

アルパカ牧場



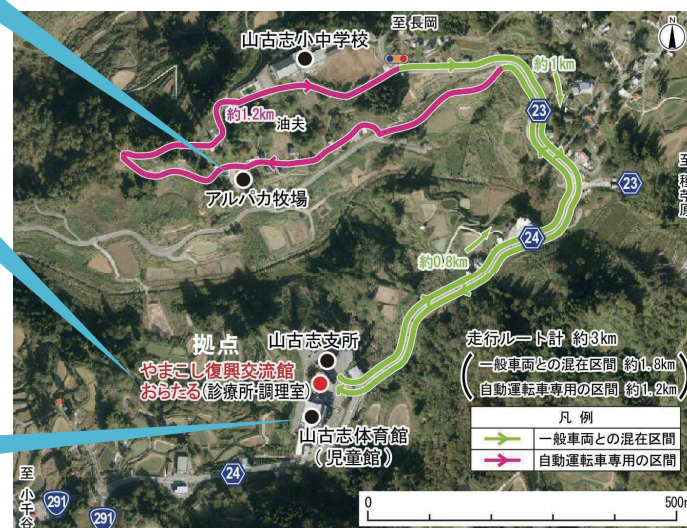
〔生活の足の確保〕

診療所や支所



〔子供たちの移動〕

児童館



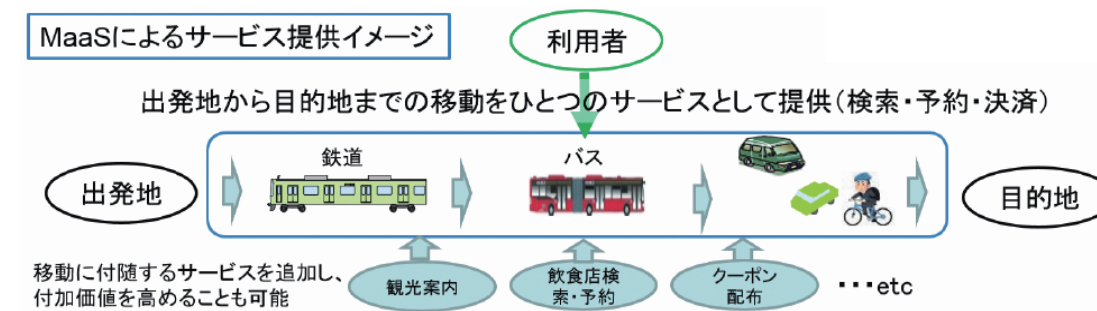
実証実験走行ルート

出典：「やまこし復興交流館おらたる」を拠点とした自動運転サービス  
第1回地域実験協議会資料(平成30年11月) 国土交通省北陸地方整備局

## 観光バス等を活用した移動サービスの充実

- ・広域観光周遊ルートを形成し、観光バス等の移動サービスを充実させることで、マイカーを利用しない高齢者やインバウンドの観光需要増加に対応します。移動中の美しい自然景観自体も観光のひとつとして楽しめます。
- ・スマートフォンアプリなどを用いて、移動手段の検索・予約・決済をまとめて実施したり、必要な観光情報を同時に提供することで、快適な観光周遊が可能となります(MaaS※等)。

※Mobility as a Service



MaaSによるサービス提供イメージ

出典：「新たなモビリティに関する近年の状況について」国土交通省総合政策局



棚田



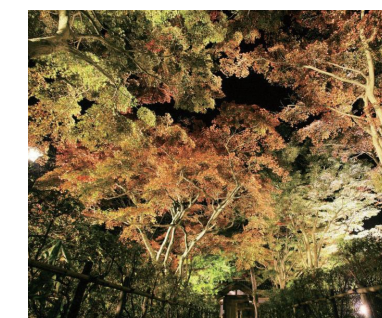
日本海の夕日



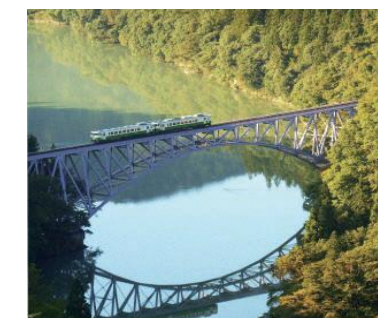
スキー場



花見



紅葉



只見線沿いの風景



7.策定経緯等

策定経緯





